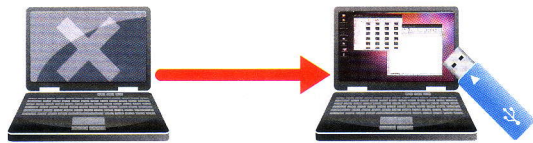


UbuntuやWindowsをUSBで起動

●緊急起動用として便利な「Ubuntu」



Windowsが
起動しないときは…

USBメモリーからUbuntu
を起動してデータ救出

図1 ハードディスクにインストールせずに起動できるLinuxベースのOS「Ubuntu」を入れたUSBメモリーを作っておくと、Windowsが起動しなくなったときにファイルの救出や緊急の作業などが可能だ



図2 Ubuntu Japanese TeamのWebサイト (<http://www.ubuntulinux.jp/products/JA-Localized/download>) から、「CDイメージ」と説明が書かれたISOファイルをダウンロードする



USBメモリーを選ぶ

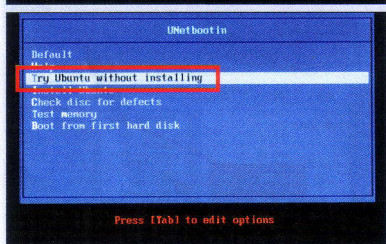
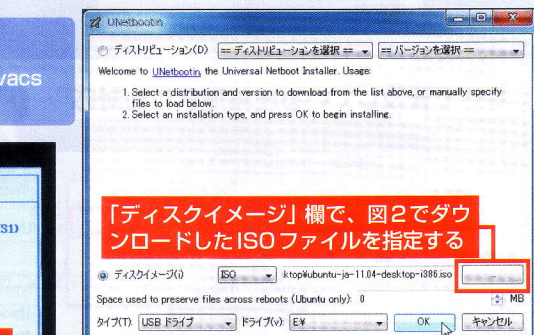


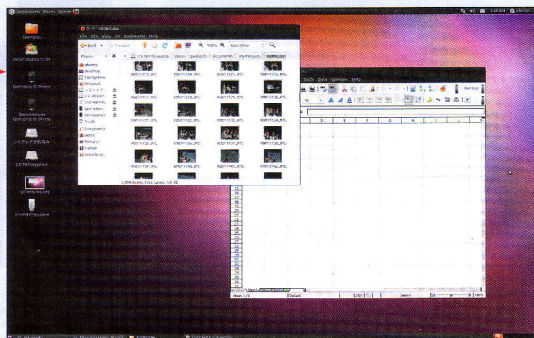
図5 Ubuntuのデスクトップ画面が開く。オフィスソフトのLibreOfficeやWebブラウザのFirefoxがプリインストールされているので、すぐに基本的な作業はできる。ハードディスク内のフォルダーが開けるので、ファイルの救出なども可能だ



「ディスクイメージ」欄で、図2でダウンロードしたISOファイルを指定する

図3 ISOファイルをUSBメモリーに組み込むためのソフト「UNetbootin」をダウンロードして起動する。USBメモリーはFAT32でフォーマットしておく

図4 Ubuntuの入ったUSBメモリーを挿した状態でパソコンの電源を入れる。起動時にBIOSの設定画面を開き、起動ドライブをUSBメモリーに指定する。UNetbootinのメニュー画面が表示されたら「Try Ubuntu without installing」を選ぶ。するとパソコンの中のWindowsは残したまま、USBメモリーからUbuntuを起動できる



USBメモリーに入れられるのは文書ファイルやソフトだけではない。OSを丸ごと入れて、起動ドライブとして使うことも可能だ。

起動ドライブとして使うには、パソコンのBIOSが「USBブート」に対応していることが条件だ。BIOSの設定画面を開いて「起動」「BOOT」などの項目に「USB Device」といった選択肢が表示されれば、対応している可能性が高い。BIOSの開き方やその表示内容はパソコンによって異なる。ここでは、USBメモリーにUbuntuとWindowsを入れてみよう。

無料で使えるUbuntu

Ubuntuは、最も有名なLinux系OSの一つ。WindowsユーザーにUbuntuが役立つのは、パソコンのハードディスクが不調になったときだ。USBメモリーからUbuntuを起動してパソコンをインターネットにつなげば、メールでの連絡やWebサイトでの調べ物など最低限の作業ができる。Ubuntuを通じてハードディスクを読み出し、データを救い出せる可能性もある(図1)。

Ubuntuには、ハードディスクにインストールせずに起動できる「Live CD」という利用方法がある。このLive CDのデータ (ISOファイル) を入手し、「UNetbootin」というソフトで“Ubuntu起動用USBメモリー”を作る(図2、図3)。Ubuntuのデータ量は680MBなので、1GB以上のUSBメモリーがあればよい。

あとは、パソコンの電源を入れてWindowsの起動前にBIOSの画面を

表示させ、USBメモリーがハードディスクよりも先に起動するよう設定するだけだ。これで、Ubuntuが立ち上がる(図4、図5)。

Windowsも持ち運べる

「XPやVistaからWindows 7に乗り換えた後でも、以前の環境を時々使いたい」と思ったことはないだろうか。そうした人には、USBメモリーにWindowsをインストールできる「BOOT革命/USB Memory」が有効だろう。これは、パソコンに入っているWindowsをUSBメモリーにコピーして起動できるようにするソフトだ。自分のパソコン以外でも、USBメモリーから同じ環境を起動できる場合がある(図6)。

BOOT革命/USB Memoryでは、ほかのパソコンで起動するために、主なドライバーをダウンロードしておいたり、USBメモリーに収めるために起動に最低限必要なファイルを絞り込んだり、さまざまな技術が使われている(図7~図9)。

この製品で注意したいのがOSやソフトのライセンス。プリインストール版のWindowsは、ほかのパソコンで利用できないので、USBメモリーからの起動は同じパソコンに限られる。パッケージ版のWindowsでも、1台のパソコンにインストールすることしか認められないので、ほかのパソコンでUSBメモリーから起動する場合は、元のパソコンからWindowsを削除しなければならない。そしてUSBメモリーで起動後、最初に「ライセンス認証」を行う。ほかのソフトについても、必ず使用許諾を確認して利用しよう。

●USBメモリーにWindowsを入れて使う



図6 「BOOT革命/USB Memory」を使うと、パソコンにインストールされているWindowsをコピーしてUSBメモリーから起動できる。ただし、プリインストール版のWindowsをUSBメモリーに入れて別のパソコンで使うのはライセンス違反となる

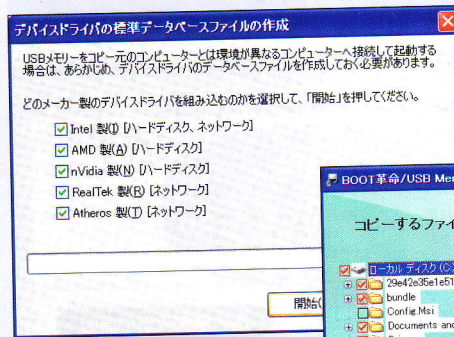


図7 ほかのパソコンでも起動できるようにするために、主要メーカーの各種ドライバーソフトを自動的にダウンロードする機能がある

図8 USBメモリーの容量が少ない場合には、「ファイルリストの作成」機能で、起動に最低限必要なファイルだけをUSBメモリーにコピーするよう設定できる。それでも、Windows XPの場合で4GB以上、Vista/7の場合で16GB以上(64ビット版の場合は32GB以上)のUSBメモリーが必要だ



BOOT革命の製品CDとUSBメモリーを挿入してパソコンを起動

